

やぐわえ

第九号

今期活動方針

会長 大鳥居 信史



神宮の式年遷宮も昨秋めでたく御齋行

され、茲に、第六十一回式年遷宮へと新らしき神道界の第一歩を歩むこととなりました。

斯様な意義深き時期に、本会長に就任致しましたことは、私の最も光榮に存する処であります。

しかし、現下の社会状況を鑑みるに、身の引き締るのを覚えると共に、神明奉仕、伝統護持の使命感を痛感するもの一人であります。

今後我々は、先輩諸兄の残された数多くの業績を尊び、新しい世代に於ける役員を中心に、会員各位の絶大なるご協力を得て、本会の目的である、会員相互の研鑽と親睦をはかり、吾が神社神道の興隆を期して参りたいと思ひます。

斯様な本会の目的達成の為に、若さと行動力をもって、吾が国の伝統的精神に則った、愛国心の高揚に微力を注いで参りたいと願ひするものであります。

それが為には、青年神職として成し得る範囲に於て、地道に立ち向かつて行かなければならないでしょう。

本期は先づ、真の日本人の心を

振起させんが為、神棚奉斎推進運動を取り上げてみたいと思ひます。この問題は神社庁の施策に協力しながらも、独自の運動展開をもつて参りたいと思ひます。

次に、本会創立二十五周年を本期に巡り合わせた我々は、これを祝うべく形式的記念行事開催に過ぎること無く、青年神職としての自覚をもって行動し、友好諸団体のご協力をもつて、これを機に、広く社会福祉活動等にも、目を向け、意義深き年となる様、記念大会実施計画を進めて参らなければなりません。

更に、本会に於て常に叫ばれて来た、氏子青年会組織の拡大、強化の件に関し、本期は特に、広く氏子青少年の教化育成という面より考へてみたい。

我々は、今日の偏向教育のもとに育った若人を、神社の森に集へ、宗教的情操を養ひ、神道思想を浸透させていくことこそ、急務ではないだろうか。

従つて、各社の事情もおありでしょうが、積極的に氏子青少年を起用していただくことこそ組織化への絶対条件でありましょう。各社に於ける前向きな姿勢無くし

ては、本会に於て、いくら「各社に氏青を結成致しましょう」と叫んで見ても効果は著われません。そこで、神社庁レベルに於ける指導力を持つてこれが為に取り組んで戴き、本会も惜しみ無い協力と運動展開を致さなければなりません。

これら数々の活動を展開するには、会員相互の理解あるご協力をモットーとし、運営を計つて参りたいと思ひます。これが為、各位の氣力に満ちた行動力に待ち、先輩諸兄のご指導を仰ぎつつ全力を傾注し、現下の社会状況に対処し若々しいバイタリティーに満ちた活動を展開し、斯界の尖兵となつて前進して参ろうではありませんか。

禊錬成会開催(予告)

「禊錬成会」は次の通り開催致します。各人宛に要項を送附致しますが、予め御了解願ひますと共に会員諸兄の参加を期待致します。

期日 七月十二・三日
場所 青梅市 御嶽神社

青年会へ結集しよう

—副会長・各部部长抱負—

清水 司

我々神道青年は斯界の推進力を自覚し、やがては次代を担う事に對する心構えを持つべきで、「會員相互の研鑽と親睦をはかり、神社神道の興隆を期す」ため、会を中心として互に切磋琢磨し、苦樂を共にし、人の和を第一に考え、斯道発展の大目的を果たすために精進しなければなりません。

そして、草創以来の有能多才な先輩の忍苦と体験を生かして、培い來ました礎の上に主眼となる教化活動を具体化し、人心に敬神生活をもたすべく不断的努力を続けるのが、我々職を神明に奉仕する青年の責務と痛感する次第です。

活気みなぎる青年会を形成すべく、會員諸兄の本会への積極参加を願いつつ、関係各位の御支援と御協力を心から願ひ上げます。

(副会長)

蔵重 命史

先輩諸賢の永年の努力により、本会が増々発展し、より新しい事業が企画され、会組織が強化され、躍進して來たものと信じます。今、この貴重な基盤の上に今後の展望を示し、倍旧の飛躍を遂げるため一新しました。

目下時局は多難を極め、斯界の大なる期待に応えその興隆を図るには、團結こそ第一と思ひます。敬神生活の意義を常に反省し、その精神を以って実践に励む事が、我々神道青年に課せられた責務であると考え、先人の業績を汚すこと無く、その一層の成果を期し、会の発展に寄与する所存です。

皆様の本会に対する深い御理解をいただき、より多くの會員諸兄の参加を希望して、私の所感と致します。

(副会長)

中田 昌之

青年会は人が集まらないとよく言われる。これはなにも青年会だけの問題ではなく、神社界全体の体質の問題でもあらうが残念な事である。現代の社会状況は、一神職が自分の奉職している神社の維持運営のみを考えていけばいい時代ではない。神社界全体が一致団結して、混迷している現今の世相に對処していかねければならない時である。

その為には神職の一人一人が現状を的確に把握して、小さな「かたまり」でもよいから、まず「かたまり」を作る事である。青年会もその一つであらう。青年会は次代の斯界を荷負うべく貴重な人材の集まりの筈である。ますますむずかしくなるであらう「明日」の神社界を考える時、青年会の果たすべき責務は大きいといえる。その青年会の浮沈をかけるのが會員各位の自覚である。會員一人一人の活躍なしで真の青年会の発展は望めない。

青年会も来年度は創立二十五周年を迎える。この時に我々は青年

神職としての自覚にめざめ、神社神道の興隆・日本民族精神の昂揚の為に青年会のもとに結束して、「我々はいかにあるべきか」「我々はなかになすべきか」をもう一度考え直してみよう。

(総務部部长)

齋藤 直孝

過日、役員会の席上で大島居会長より我々に青年の自己研鑽に留意せよとの注文を受けた。私もその方針には賛意をおぼえ、旧來の部担当の仕事と事業計画に基づいて、部員各二名ずつ分担して、その充実を企画してみた。

全活動を充実するには何としても分担して頂かねばならない。一部門を担当して行く内に企画と責務の重大さを身をもって体得する事は、己の自覚にもなると思ひからでもある。

臨時總會に於ける「生命の尊嚴と性の意義」と題する福田実術氏の講演は、教養講座の主題となる「人一人人生儀礼に於ける神道の意義」の導入として位置づける。各講座には原則として講師は招かず、會員による討論形式で進行し、出

来れば年度末に研修の成果を発表したい。

何とも我ままな自分なので、多勢の助力がなければこの役を全うし得ないと思ひ、各氏の分担を御願ひすると、氣持よく引受けてくれるのは喜ばしい事である。

会の為、我々神社界の為に微力をつくしてみたい。

(教養部部長)

日暮 英司

教化部事業方針を考えるに、教化と言う巾の広い奥の深い問題であり、これらを全て取り上げる事は神社庁機構ならばいざしらず、我々青年会の立場としては、すべて理想論に終始してしまふより、問題点が数多く見られるのであります。

理想に燃えることこそ青年の青年会たるゆえんでありますが、実行も伴わなければ事業方針とは言えないのであります。教化部として、この点を重視し、先ず理想論を打ち出し、その中に青年だからこそ出来るもの、身近かに必要とされるであろう小さな問題の一つ一つを出来得る限り取り上げる

より心がけ、これを企画検討し、委員会に計り会員各位の御協力を得まして、又、先輩諸氏の御支援を賜り、理想論を理想論として止めず、これに出来得る限り近づける様努力致す所存であります。

(教化部部長)

小泉 朋昭

私は、神道青年会に入会してから七年位になると思いますが、その間、情熱をもって会の活動に参加して来たと言へば、自分でも首をかき上げたくなりますが、少なくともその間に、多くの先輩や、同輩と顔見知りになれた事は、私には意義ある事と思つています。

神道青年の全国組織ともいふべき神青協とのパイプ役が、渉外部の大きな役目である事は言を待ちませんが、その神青協の活動、即ち各会員一人一人の活動であり、その活動は、まず顔見知りになり、友達となる事から始まると言つても過言ではないと思ひます。今年には神青協創立二十五周年に当り、伊勢で式典、植樹祭、東京で親善野球大会等が執り行われますが、一人でも多くの会員の方が

参加し、その一人一人が、パイプ役となられる事を期待致します。

(渉外部部長)

山内 温

先輩諸兄によるこれまでの御指導の全てを基に、課せられた新しい使命を果すべく努力したい、と考えます。

現在、本会会員の数は二百名を超えますが、その多くは未だ、会組織の活動に対し直接の参加がありません。人それぞれに見方の違い、考え方の違いがあるのは当然ですが、結束こそが斯界の発展の第一義であると信じます。

従つて、この「やくわえ」が、これらの未参加会員との接点である事を重視し、編集方針を検討する事が急務であると考えます。そして、機関紙として、一層新しい企画形式を試みる為、部員と共に研鑽を積み重ね、各位の御指導を仰ぎつつ「やくわえ」の名に恥じぬ成長発展を目指します。

(広報部部長)

小山 陽

「こころで一息」と言うことは、会の運営を円滑裡に運ぶのに、非常に重要なことではなからうか。その意味において、事業部の果たす役割は潤滑油でなければならぬと思つてゐる。

神道青年会の組織の充実と、会員相互の親睦を計るために、今年も事業部として諸計画を立案し一人でも多くの参会者が集り事を乞願つております。

そして、時局多難な社会情勢に對して、我々、神道青年会の意気揚々とした心意氣を果すことが出来たら、事業部担当の者として、この上もない喜びであります。

聖徳太子の「十七条憲法」の中に「和を以て尊しと為し」と言う言葉が有ります。

我々、神道青年会は、神社神道の限りなき発展を期するために、会員相互の「和」を旨とし、次代を担つて行くため確固たる信念を持つとうでは有りませんか。

その意味において、事業部の立案を推進するため、会員諸兄の惜しみない御指導と御鞭達を賜わると共に、多くの参会者を心底から期待しております。

(事業部部長)

会長に大鳥居信史氏

副会長は清水・蔵重の両氏

昭和四十九年度は役員改選期に当る。去る四月十七日の定例総会に於て、四十八年度事業報告、会計報告が行われ満場一致でこれを承認、続いて役員任期満了に伴い、北川、松本、大鳥居の正副会長、八木、森田、高橋の各監事及び山本議長がそれぞれ辞任した。新役員には、委員の合議により、左記の各氏が選出され、総会に於て承認された。

- | | | |
|-----|-------|-----|
| 会長 | 大鳥居信史 | 千代田 |
| 副会長 | 清水 司 | 文京 |
| 副会長 | 蔵重 命史 | 世田谷 |
| 議長 | 滝 実 | 港 |
| 監事 | 松本 美昭 | 大田 |
| 監事 | 北川 正保 | 大田 |
| 監事 | 春田 知男 | 墨田 |
- 尚、各役員及委員の担当部門は左記の通りである。
- | | | |
|-----|---------|----|
| 総務部 | 部長 中田昌之 | 中野 |
| 会計 | 渡辺和寿 | 台東 |
| 庶務 | 倉光賢一 | 足立 |
| 庶務 | 浜中厚生 | 足立 |
| 部長 | 齊藤直孝 | 新宿 |

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 田中芳彦(目黒) | 安藤勝美(中央) | 植栗照之(台東) |
| 八木敏夫(北) | 村岡賢治(新宿) | 小俣宗昭(杉並) |
| 矢島輝一(渋谷) | 教化部 部長 日暮英司 | 荒川 |
| 片山文彦(新宿) | 石橋常胤(千代田) | 桑原恒明(千代田) |
| 宮川憲一(葛飾) | 柳原正三(千代田) | 宮廻勇丸(葛飾) |
| 川合玄紘(大田) | 秋永勝彦(渋谷) | 内田英雄(練馬) |
| 宮崎正紘(千代田) | 萩原俊紹(大田) | 三笠光敏(港) |
| 早山彰(渋谷) | 木村和史(墨田) | 小野貴嗣(台東) |
| 渉外部 部長 小泉朋昭 | 板橋 | 浜中厚生(足立) |
| 菊池健二郎(文京) | 押見守康(文京) | 小野貴嗣(台東) |
| 広報部 部長 山内 温 | 豊島 | 内海一紀(文京) |
| 松宮兼房(八南) | 千村義和(台東) | 香取邦彦(江東) |
| 山口直和 | | |

(品川)、中田憲文(中野) 事業部 部長 小山 陽 品川 中神孝(杉並)、大野弘道(品川)、齊藤彰男(杉並)、長岡式部(板橋)、大村忠(大田)、山崎寛(千代田)、北川憲史(大田)、押見守康(文京)、中村善隆(世田谷)

相談役 齊藤吉則(杉並)、鳥海利夫(板橋)、田中康彦(江東)、宮西惟道(千代田) 神尾恭三(足立)、齊藤成徳(新宿)、森田義則(品川) 山本雅道(杉並)、八木光昭(北)、高橋範秀(世田谷)

新役員は直ちに本年度の事業計画、予算案の作成に着手、五月二十四日に委員会を開催、同二十八日の臨時総会に両案を提出して承認を受けた。活動方針に基づく各部門の事業計画は次の通りになる。

一、教化部
氏子青少年教育育成、都氏子青年連絡会の促進、ポーンスカウト、ガールスカウトの組織強化

一、渉外部
育成、国旗掲揚推進運動、神棚奉斎運動振起、社会福祉問題

一、広報部
神青協創立二十五周年記念事業への参加、神青協総会、常任理事会への参加、運営、北方領土早期復帰運動、沖縄戦没学徒慰霊祭への参加、協力

一、事業部
機関紙「やくわえ」発行年二回
会員名簿作成
懇親旅行会、ドライブ会、親善野球大会、釣大会、ボウリング大会二回、忘年会、新年会



○ 本年七月の参議院選挙は、場合によってはその結果、永年続いた保守政権を覆えそうとする野党連合政権に重大な影響を与えようとしている。我々は左偏向した危局の中で、神社神道の本義に則り、増々伝統的な思想精神を教化育成すべき使命感を一層自覚したい。

○ 本年度の活動方針を顧みても日本の精神の伝統を護る事が今日に於ける人間性への復帰や国民精神の昂揚と言う立場から考察されねばならない。従って神棚奉斎、国旗掲揚推進運動、青少年の教化育成等、諸教化の活動に当り、「我が国の伝統的精神に則る愛国心の昂揚」が、神社神道を中心とするものの外にあり得ない確固たる認識の上に、この国土に伝わる精神文化を教化する責務に対処しなければならぬ。

○ そして、企画の実現を図るためにも、各個固有の事情を充分考慮した上でその具体化に努め、その経験を、会組織を通じて交換、検討し効果に大なるものを期さねばならぬ。

○ 本会創立二十五周年を明年に迎える事になるが、創立以来二十五年、先輩諸兄の熱意と努力の累積により、将来の飛躍に備える切蹙琢磨の場として着実な成果を挙げて来た。

○ この記念すべき年に際し、創立の精神を喚起し、初心に帰ると共に新なる決意を持ち奮起する事は、会の持つ本来の使命感を一層意義づけるものにならう。その為にも、初年度に際し、記念事業の有意義な企画を要望する。

○ 家庭に於ける子弟教育の低下、学校に於ける左翼偏向教育に加えて、それを補正すべく社会教育の重要さを実感しているのが、氏子青年会、ボーイスカウト及びガールスカウト等青少年教化育成に当る指導者達であろう。

○ 都氏子青年会組織の拡大、強化は、従来通り、継続的な活動が続けられようが、ボーイスカウト、ガールスカウト組織の強化、育成を目指す指導者養成が望まれる。単なる資格獲得にとどまらず、重責を全うし得る神道青年として、一層の研修が要求される事は言うまでも無し。

氏子青年会紹介 (その五)

氏子青年会組織の拡大、強化は永年にわたる本会教化活動の主眼である。新活動方針によると、今期は特に青少年教化育成を運動の目標としているが、やはり同一の目的を目指して、明日の日本を背負う若人に明るい未来を希望するならば、神道思想を基盤とする青少年を教化育成し、日本精神の伝達を推進しなければならぬ。各神社の事情に即した施策を講じ、積極的な運動を展開したい。

小野照崎神社 氏子青年会



(所在) 台東区下谷二一三
一四(会長) 武田秀昭(会員) 一七〇(結成) 昭和四八年九月二四日(活動) 氏子子供餅つき大会、元旦社頭奉仕、都内神社巡り、新年懇親宴会、節分祭に赤鬼青鬼奉仕及び境内整理、ポウリング大会、神幸祭に白丁奉仕及び神社神輿警護、お山開き奉仕、敬老祭に老人参拝者の世話、講演会主催、神社主催の参拝旅行に参加、定時総会。昨年夏、小野照崎神社(小野亮哉宮司)の氏子青年同志約五〇名により「氏神様の話と齋木遺、お雛子を聞く会」が開かれた際、自然発生的に氏子青年会の発起人が誕生した。「氏神様の祭礼及び年間諸行事に奉仕すると共に、氏子青年の親睦を図り、より良い郷土づくりに邁進する」ことを活動方針とする。

針とする。そして小野宮司は氏子青年会について「結成する事は容易であるが、発会当時の清新な心構えを持ち続け、常に魅力ある会として運営するには格別な努力の積み重ねが必要である」と、貴重な御意見を寄せられた。

千束八幡神社 氏子青年会

(所在) 大田区南千束二二三
一〇(会長) 土屋昌寿(会員) 一五〇名(結成) 昭和四七年六月一八日(活動) 毎月一回役員会を開催・大祭神輿渡御及び境内活動・除夜祭篝火奉仕・元旦甘酒、神酒授与等の社頭奉仕・神社を中心とする郷土史の研究・会員の趣味同好会・旅行、ハイキング等のレクリエーション・交通安全推進自動車パレード・子供早起きラジオ体操会・子供スケッチ大会。
同神社(恵良三郎宮司)では四、五年前から氏子青年会の結成を望んでいたが、氏子青年有志の賛同を得る事により各町内に会員の適任者選出を依頼し、たび重なる準備会の末、結成に至ったという。

恵良宮司は「氏子青年会結成を喜んでいる。伝統的日本精神に基づき、地域社会に寄与すべく活動する事を活動方針とする。今後の活動等について氏子青年に対する希望、抱負は多々あるが、結成して日も浅いので、只一つ一つ着実に実行し、常に謙虚に反省しつつ前進するよう指導している。近い将来には、会の手でポイイスカウトの結成を計画している」と述べている。



品川神社 氏子青年会



(所在) 品川区北品川三―七―
一五(会長) 岩瀬吉二郎(会員)
一三〇名(結成) 昭和四九年三月
一〇日(活動) 例大祭行事参加奉
仕、夏休みを利用し納涼会開催、
正月正式参拝及び神輿初かつぎ、
節分祭行事参加奉仕、都氏子青年
連絡会に参加。

品川神社(小泉和夫宮司)では
昨年の例大祭に、五十年間町に出
なかつた大神輿(四八〇貫)を青
年の希望により神社前の国道でか
ついだ。この行事を本年も行う事
になり、青年の組織が必要
となり氏子青年会を結成す
るに至った。

会則に「本会は品川神社
を崇敬し、氏子青年として
の自覚に立ち祖先の残した
良き伝統と精神を受け継ぎ、
会員相互の研鑽と親睦をは
かり、神社の興隆と清く明
かるい郷土造りに邁進する
」とあるが、小泉宮司は「
この目的の徹底をはかりた
いと考えている」と述べ、
六月の例大祭を前に、結成
の喜びを「大神輿の御利益
である」と結んだ。

網領を中心として運動を展開す
る氏子青年会の組織の拡大、強化
を図る為、我が神道青年会もその
一翼を担いつつ、共に所期の成果
をおさめんと努力を続けている。
三年前、全国氏子青年協議会は
遷宮奉賛を目指す「組織拡大三ヶ
年計画」を打ち立て、その成果の

上に昨年行われた創立十周年記念
大会を迎え、拡大発展の基礎を築
こうとの展望に立った。つづいて
今冬二月、神宮式年遷宮を記念す
る東京都氏子青年大会が、「各神
社に氏子青年会を、若人を緑の
森に結集しよう」の声高く開催
された。

そして去る三月の品川神社氏子
青年会が結成され、都内には次の
十五の氏子青年単体会が誕生した
ことになる。

- 道々橋八幡神社氏子青年会
- 牛島神社氏子青年会
- 日枝神社奉賛青年会
- 雪ヶ谷八幡神社氏子青年会
- 居木神社氏子青年会
- 氷川神社氏子青年会
- 熊野神社仲睦会
- 貴船神社氏子青年会
- 浅間神社氏子青年会
- 蒲田氏子青年会
- 花園神社氏子青年会
- 熊野神社氏子青年会
- 千束八幡神社氏子青年会
- 小野照崎神社氏子青年会
- 品川神社氏子青年会

氏子青年会をいちはやく結成し、
永年その育成に尽力し、今日も尚

活発な活動を続ける一指導者は、
氏子青年運動の組織推進について
「その理想とする目的が単純なほ
ど強化且つ集団化し易く、その発
展もめざましい」と、運動の目的
の多様性については一考を促して
いる。さらに会自体の性格につい
ても、「教化を目的とする集団で
あるか、地縁的集団であるか、信
仰者集団であるか、或るいは同好
者集団であるか集団の性格を曖昧
にせず興味深い性格を打ち出すこ
と」として、結成後の継持、継続
について忘れてならない事として
「後継者の養成が必至である」と
併せて進言している。



若人よ 来たれ

若人の熱意に燃えた先人の努力の賜物である青年会は、さらに生成発展して将来へ躍進するものと思ひます。これを生かすと否とは我々青年の双肩にかかっています。人によっては会が親睦と研修の場となり、人によっては無関心の存在となるかも知れません。しかし、我々は何らの偏見を持たずに、その良い所は良いとし、悪い所は悪いとして今後の参考として行かなければなりません。

青年会を中心に各人が交流することにより、また会組織が各人の有用性を吸収することにより、はじめて人と人、人と会の関係が成長するのだと思ひます。従って、各人が会に対する自覚を確めた上で会に臨むならば、それがどの様な行事と云え、そこで得るものは大となりましょう。それなくして会の発展は望めません。なぜなら会で得た各人の収穫こそが、そのまま会自体の生成発展の要になると思ひからです。

若人よ 来たれ

奥多摩の山と溪谷は実に美しい。特に森林は奥多摩の魅力で、全山緑の森林におおわれている。御岳山は雲表三千尺。山上の展望は雄大で直下には御岳溪谷が、又、遠く日光連山、筑波山も望める。台風で樹令五百年の巨杉が倒れ、辺りの風景は一変したと云うが、二千年の歴史を誇る神域はうっそうたる森林の中にある。

早朝、露に濡れる山道を御滝へ走り、清々しい大気に包まれて行なう身滌は、冷たく身が引きしまる。

襖練成は青年会の重要行事の一つで、その意義は古事記の冒頭の講義に明白である。同じ志を持つ青年が一堂に会し、それぞれの新鮮な個性を持ち寄り、短期間ではあるが寝食を共にして行に学に励む。ここに生まれる心の触れ合いと個々の研鑽は貴重なもので、会員相互のより深い理解も同時に得られると思ひが。

若人よ 来たれ

かつて我々の大先輩である小野亮哉氏は「雅楽不振に対する一考察」を発表した。その中で氏は、日本民族の体内に脈々と流れ奔る、

日本精神の表現音楽とも言ふべき雅楽の不振を憂え、雅楽を徒らに「古し」として洋楽偏向の思索をするのを嘆いた。そして一外国音楽家の言「此の様な偉大な音楽が千数百年もの昔から東洋に存在する事は、世界的な奇蹟であり、亦此の様な偉大な音楽が自国に存在する事すら知らずに居る日本人がある事も、亦偉大なる奇蹟である」を引用して警鐘とした。

その精神が、脈々として現在に流れ、更に将来にまでびよんとする生命を、昔日の如き潑刺たる勇姿に回復せんとする氏の熱意には大なるものがある。

今日、我々は氏を師と仰ぎ、この世界に類なき歴史と精神を有する芸術に接し、学ぶ機会（雅楽講習会）を持つ。寧ろ平安の昔の祖先の息吹を宛然に今に伝える雅楽の高雅極り無き幽玄の調べへの関心を深めると共に教化を重視する我々にとって、雅楽を如何に活用して行くかは、おろそかにすべき問題ではない、と思ひ。

若人よ 来たれ

東京都神道人野球大会には十五年以上の歴史があり、「神青」チ

ームは昨夏の大会で九年ぶりに優勝の栄を獲得した。

白球を追って華やかなプレーを演じる選手達と共に、ベンチには試合の進行を見守る一群が居る。彼等は、ボールの行方に熱中する若い選手達には気がつかない点もその繊細な神経で発見し、的確に判断し善処する。蔭ながら我々の安全を保護し、試合を円滑に運ぶ。その存在は、野球を愛する者にとって望外の幸であり、得難いものである。彼等のシャツには「神青」の文字こそ無いが、その胸中には野球を知り、スポーツを愛する者が持つ純な情熱を秘めている。

こんな「強者」と睦じくなれる機会が「神青」にはある。

若人よ 来たれ

◇ 編集後記 ◇

御多忙の時期に御協力いただき感謝致します。 編集担当 山内

昭和四十九年六月七日
 東京都神道青年会
 東京都港区元赤坂二―二―三三
 東京都神社庁内
 電話(408)二三六一・九二七七